

1 題材について

対 象 学 年	小学校 第6学年
学 習 指 導 要 領	第5学年及び第6学年の内容（1）（3）（8）
題 材 名	「ソーイングはまかせて - 家庭生活に役立つ袋を作ろう - 」（全10時間）
題 材 目 標	<p>家庭生活に役立つものを作る楽しさと、製作したものが活用される喜びを味わう。 （家庭生活への関心・意欲・態度）</p> <p>自分や家族の生活に役立つように、形、大きさ、材料、縫い方を工夫できる。 （生活を創意工夫する能力）</p> <p>目的に応じた縫い方、始末の仕方等の技能を身に付けることができる。 （生活の技能）</p> <p>製作に必要な材料や用具及び縫い方がわかり、製作の手順を理解している。 （家庭生活についての知識・理解）</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 学習内容を系統的にとらえた題材構成の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の家庭科の授業（5年生60時間、6年生55時間）における学習内容の系統と評価を明らかにし、児童が効率的に順序立てた学習ができるように題材を構成した。 <p>単位時間におけるみとどけの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容（1）（3）（8）に関して児童が基礎的・基礎的な内容を確実に身に付けることができるように、下記のような視点で見届けをした。 <ul style="list-style-type: none"> 「家庭生活の想起」 家庭からの取材や調べ学習ををもとにしているか。 「特性・本質の理解」 素材のもつ特質や習得すべき基礎・基本に迫っているか。 「視野の拡大」 家庭実践につながる発見をしているか。 <p>家庭生活を想起する活動を位置付けた題材構成の在り方 家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育成するために、次のような学習場面を段階的に位置付けるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：題材で扱う素材や製作物を通して家庭生活を見つめさせる。 ：家庭生活を想起しながら工夫を生み出させる。 ：これまでの学習で身に付けた知識や技能などを自分の家庭生活に生かす。
参 考 資 料	参考資料1：学習プリント「～ソーイングはまかせて～生活に役立つ袋を作ろう」

2 題材の評価規準

	ア 家庭生活への関心・意欲・態度	イ 生活を創意工夫する能力	ウ 生活の技能	エ 家庭生活についての知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関心を持ち、家庭の仕事をしたり、家族との触れ合いをもったりしようとしている。(1) ・布を用いた生活に役立つ物の製作に関心を持ち、製作し、活用しようとしている。(3) ・近隣の人々との生活に関心を持ち、自分の家庭生活について環境に配慮した生活をしようとしている。(8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を見直し家庭の仕事や家族との触れ合いについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。(1) ・布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりしている。(3) ・近隣の人々との生活を考え、自分の家庭生活を見直し環境に配慮した生活を自分なりに工夫している。(8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の仕事を分担したり、家族との触れ合いをもったりすることができる。(1) ・布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的な技能を身に付けている。(3) ・近隣の人々との生活を考え、自分の家庭生活について環境への配慮した生活ができる。(8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の仕事や家族との触れ合いを通して、家庭生活や家族について理解している。(1) ・布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的な事項について理解している。(3) ・近隣の人々との生活を考え、環境に配慮した自分の家庭生活について理解している。(8)
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に役立つものを作る楽しさと、製作したものが活用される喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の生活に役立つように、形、大きさ、材料、縫い方を工夫できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた縫い方、始末の仕方等の技能を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作に必要な材料や用具及び縫い方がわかり、製作の手順を理解している。
単位時間における具体の評価規準	<p>布でできた物を生活の中で活用するよさを想起し、家庭生活に役立つという観点で作りたい袋を決めようとしている。</p> <p>(毎時間ごとに自分の取り組みを振り返り) 意欲的に製作しようとしている。</p> <p>家庭生活に役立つものを作る楽しさと、製作したものが活用される喜びを味わうことができる。</p>	<p>自分の作ってみたい袋の大きさについて、使用状況に応じた工夫ができる。</p> <p>目的に応じた縫い方を工夫することができる。</p>	<p>用具を安全に使用してしるしを付け、布を裁つことができる。</p> <p>目的に応じたミシンの縫い方、始末の仕方をする事ができる。</p>	<p>製作に必要な材料や用具、手順、時間、配慮するとよいことを理解している。</p>

3 指導と評価の計画（全10時間）

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	<p>布製の袋のよさを味わい、自分の作りたい袋のイメージをつかむ。</p>	<p>自分の家庭でよく使われる布製の袋（手作りがよい）を紹介し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分が作りたい袋の形を考えよう。</p> </div> <p>布でできた袋のよさを考え手作りのよさについて考える。 教師示範、段階標本を見て製作手順、布柄、とって等のイメージをつかむ。 作りたい袋の形を絵に描く</p>	<p><ア - > 布でできた物を生活の中で活用するよさを想起し、家庭生活に役立つという観点で作りたい袋を決めようとしている。</p>	<p>学習プリント（参考資料1） ・「自分が作ってみたい袋は」の記述内容を評価する。</p>	<p>袋のよさを以下の3点にまとめ家庭生活に役立つ袋を作ってみたいという意欲を高める。 手作りであたたかみがある。気持ちがこもっている。 目的にあった大きさにできる。 軽量、かさばらない。</p>
<p>【家族との関わりの中で学ぶ場と手だての工夫 - 児童、家族、教師願いの共有 - 】</p> <p>「願いの基盤となる”作りたい袋”について家族で話し合う。」 <ul style="list-style-type: none"> ・家族の生活に役立つ袋とはどのようなものかを親子で話し合う。 ・誰にどんな袋を作るのかを決める。 ・作りたい袋の形をイメージとして絵に描く。 <p>家族で相談したり、教師が子どもの相談にのったりする時間が必要なため、第1時と2時は、1週間ほどの間をおく。</p> </p>					
2 本 時	<p>家族からのアドバイスをもとに自分の作ってみたい袋のイメージをふくらませビニール製の袋を作る</p>	<p>作ってみたい袋について交流し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の袋のちょうどよい大きさを見つけよう。</p> </div> <p>教師から提示された見本を参考にしながら、自分の袋の大きさについて考える。</p>	<p><イ - > 自分の作ってみたい袋の大きさについ</p>	<p>学習プリント（参考資料1）</p>	<p>自分の袋の大きさを決め出すために家族からの</p>

	活動を通して、工夫しながら大きさを決めることができる。	中に入れるものを包みながら大きさを工夫し、ビニール製の型紙を作る。	て、使用状況に応じた工夫ができる。	・「大きさを工夫するときに考えたこと」の記述内容を評価する	アドバイスを参考にさせる。(学習プリントに欄を位置付ける。)
3	前時に製作したビニール袋をもとに、必要な布の大きさを決める。 (3, 4時は連続授業で行う。)	ビニールの型紙にとってやポケットを付けて、できあがりを想定する。 できあがりが必要な布の大きさを決めて布を裁とう。 ビニール袋を開いて型紙にうつし、必要な布の大きさを決める。	<エ - > 製作に必要な材料、用具、手順、時間、配慮するとよいことを理解している。	作業観察 ・製作に必要な条件が整っているかを見る。	
4		型紙をもとにチャコペンを使って印をつける。 布を裁つ	<ウ - > 用具を安全に使ってしるしを付け、布を裁つことができる。	作業観察 ・裁った布が型紙通りになっているかを評価する。	袋を持った姿を鏡に写したり、仲間から評価をもらい、袋の形、大きさを最終決定させる。また、ビニールで製作した袋のホッチキスでとめた部分がぬいしろになることを理解させる。
5	袋見本に中身を出し入れする作業を通して、力のかかる場所を見つけ、ミシンを使ってその場所を丈夫に仕上げることができる。	返し縫いを施していない袋見本に中身を出し入れすることから、課題をつかむ。 返し縫いが必要なところを見つけて、そこを丈夫に縫おう。 袋見本に中身を出し入れすることから、力のかかる場所はどこなのか、どのように縫い方を工夫したらよいかを見つける。「教師示範を見て」キーワードを意識して、袋の力のかかる場所を返し縫いする。	<イ - > 目的に応じた縫い方を工夫することができる。	学習プリント(参考資料1) ・「じょうぶに縫う場所について考えたことを	袋見本に中身を出し入れすることから、返し縫いの必要性を実感させる。そして、自分の袋のどこに使うのか

		自分の返し縫いを自己評価する。		書きましよう。」の記述内容を評価する。	を考えさせる。
6 7	ていねいさ 美しさ、丈夫さを考えながら製作することができる。 (6, 7時と8, 9時は連続授業で行う。)	縫う順番を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ていねいさ、美しさ、丈夫さを考えながら袋の部分を製作しよう。</div> 縫う場所にあった縫い方を考えながら製作する	<ア - > (毎時間ごとに自分の取り組みを振り返り)意欲的に製作することができる。	作業観察と学習プリント ・製作に向かう姿勢と学習プリント(参考資料1)「製作を振り返って」の記述内容を評価する。	製作見本と自分の作品を比較させることで製作への見通しをもたせる。
8 9	製作見本を観察して課題をつかむ。 (持ち手のある袋を製作する子) 持ち手と袋本体の接合部を観察する。 (きんちゃく形の袋を製作する子) 力のかかる部分に部分的な返し縫いがしてあることを着目する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">力がかかる場所を考えながら、ひもや持ち手をつけて完成させよう。</div> 縫う場所にあった縫い方を考えながら製作する 製作を振り返る。	目的に応じた縫い方、始末の仕方をすることができる。	作品と作業観察 ・目的に応じた縫い方ができているか作品と作業を評価する。 学習プリント(参考資料1) ・「製作を振り返って」の記述内容について評価する。	出し入れをする際に力がかかる場所や、中身の荷重が集中的に加わる場所を想起しながら、ミシン縫いをしていない子を価値付け、クラスに紹介する。	

10

【家族との関わりの中で学ぶ場と手だての工夫 - 生活に生かす - 】
 「作品の自己評価」大きさ、縫い方について自分で工夫したことが、使用をしてみてどうだったか振り返り、製作の満足感や成就感を味わう。
 「家族からの評価」
 袋が生活に役立っている様子や気持ちを家族に書いてもらい、製作したものが活用される喜びを味わう。

自分で作った物が家庭生活に役立つよさを知り、これからも進んで活用したり作ったりしていこうとする。

袋を製作してうまくいったことと、そうでなかったことを交流する。 <袋別グループ>

学習を振り返り、今後の生活に生かすことを見つけよう。

袋を使ってみた家族の感想を交流しあう。 <全体交流>
 家族からの感想ビデオを見て、学習の成果をつかむ。
 <全体交流>
 教師の話（今後の学習や生活に生かしてほしいことについて話す。）

アー
 家庭生活に役立つものを作る楽しさと、製作したものが活用される喜びを味わうことができる。

発言・学習プリント
 ・「袋を使ってみて」に記述された内容により評価する。

家族の生活の役に立っていることに喜びを見いだしている子を価値付ける。

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・家族からのアドバイスをもとに自分の作ってみたい袋のイメージをふくらませ、ビニール製の袋を作る活動を通して、目的にあった袋の大きさを工夫しながら決めることができる。

(2) 本時の位置

2 / 10時

(3) 展開案

展開	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つ か む 10 分	<p>作ってみたい袋について交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が使う ・何を入れる袋 ・どんなときに使う袋 ・その他 <p>袋作りについて、決まっていることと、そうでないことを整理して本時の課題をつかむ。</p>		<p>作ってみたい袋に家族からのアドバイスが活かされているかを確認する。 (発、学習プリント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のアドバイスを価値付ける。 ・家族との交流の様子を問い返し、家族と共に考えることができたことを価値付ける。
考 え る 10 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分の袋のちょうどよい大きさを見つけよう。</p> </div> <p>教師から提示された見本を参考にして、自分の袋の大きさについて考える。</p> <p>「出し入れがしやすい袋にしたい。」 「お父さんが仕事にもっていけるために、できるだけコンパクトにしたい。」 「持ち運びがしやすい袋にしたい。」</p>		<p>ちょうどよい大きさをどのようにとらえているか、子どもの気付きを類型化して、「ちょうどよい大きさ」「誰がどう使うか」「出し入れ」というキーワードを例示する。</p>
工 夫 す る 15 分	<p>教師示範を参考にしながら大きさ工夫してビニール製の袋を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定したものがすべて入りきらない。 ・ものは入るが、ひもをしぼった時に口が閉まりきらない。 ・出し入れが窮屈。 <p>「厚み(まち)をもたせよう。」(手提袋) 「しぼった時にしっかり口が閉まるよう、深さをもたせよう。」(きんちゃく袋) 「何度も出し入れを繰り返し、出し入れがしやすいゆとりをもたせよう。」 「あまりゆとりをもたせると、持ち運びがしにくくなった。少し縮めよう。」 ・出し入れしながら試してみる。 ・持ち運びしながら試してみる。</p>	<p><イ - > 自分の作ってみたい袋の大きさについて使用状況に応じた工夫をすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリント中の「大きさを工夫するとき考えたこと」の記述内容により評価する。 	<p>努力を要すると判断した子には、「ちょうどよい大きさ」「ゆとり」をどのようにとらえたかを問い返し、援助する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用される状況を想起させる。 ・出し入れのゆとりに気付いている子を参考にさせる。
ま と め る 10	<p>大きさを決めだし、ホチキス等を使って型紙を作る時のもとになる(ビニールの)袋のモデルを作る。</p> <p>大きさを工夫するとき考えたことを袋別グループで交流し合い相互評価をする。</p>		<p>使用される状況を明確にしながら交流させる。</p> <p>布、取っ手等について家で相談するとよいことを助言する。</p>

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的取り上げた評価規準

評 価 規 準

<イ - >

自分の作ってみたい袋の大きさについて使用状況に応じた工夫ができる。

(2) 評価の実際

【評価の方法】

本時は、家族からのアドバイスを参考にした袋の形を交流し合う中で、自分の作ってみたい袋のイメージをふくらませ、工夫しながら袋の大きさを決める授業である。工夫する段階では、「ビニール袋」を使って試作した「袋」に中身を出し入れしたり、実際に入れて持ち運びをする作業を通して、目的にあった大きさになるよう、修正を加えていく。その際、工夫したことを記述する「学習プリントの内容」をとらえることにより、学習状況を判断しようとした。また、学習プリント以外にも、活動中や交流時の「つぶやき」や「発言」においても状況を判断することに努めた。

【判断した児童の状況例】

「大きさを工夫する時に考えたこと」を記述した学習プリントに、次のような記述が見られた際、「おおむね満足できる状況」であると判断することにした。また、「袋」を使う家族の生活を想起するだけでなく、使う側の気持ちを考えながら大きさを工夫することができている、と認めることができた時、「十分満足できる状況」であると判断した。

「おむつとほ乳びんを入れた時、少しゆとりができるように大きさを決めた。」

「この大きさだと、きんちゃくのひもをしぼったときにしまりきらないから、その分を考えて大きさを決めた。」

「着替えの服を入れる袋だから、たたんだ服が2～3枚くらい入る厚みにした。」

— 実際の子どもの記述から —

十分満足	「そう言えば、お母さんは、帰りには、袋いっぱい荷物入れることもあるから、あと 3cm くらい厚さを増すことにした。」	袋を使う家族の生活を想起するだけでなく、使う側の気持ちを考えながら大きさを決めることができる。
おおむね満足	「お母さんが着替えの服を入れる袋だから、たたんだ服が2～3枚くらい入る厚みにした。」	自分の作ってみたい袋の大きさについて使用状況に応じた工夫ができる。
努力要する		

(3) 個に応じた指導の実際

努力を要する状況と判断した子への指導

工夫する段階において、本時の中心となる評価を行ったが、「おおむね満足できる状況」に至っていないと判断した子へは次のような指導・援助を行った。

まず、その原因を「使用状況が具体的に想起できていないため、工夫に結び付いていかない」ととらえた。そこで、「どのような目的や願いで袋を作ろうとしているのか」を聴き取ったり、一緒に「製作カード」を見直すことにより、使用される状況を想起させる援助に努めた。

Aさんは、その手立てにより、自分なりに「ちょうどよいゆとり」を考えながら、大きさを決め出すことができた。

しかし、Bさんは、使用する状況を明確にイメージできていながら、きんちゃく袋のひもを締めた際、どうしても窮屈になってしまうことにつまずいている様子だった。入れるものの大きさを考え、「幅を少し大きくする」というBさんなりの「ゆとり」の持たせ方は大いに認めながら、どこを工夫すると満足する状態になるのかを、出し入れを繰り返しながら作業をしているCさんの姿に目を向けることにより、考えることができるようにした。そして、「ゆっくり出し入れしてみよう」と助言をした。Bさんは、何度かものを出し入れしながら、ひもが締まる際にしわがよって窮屈になる様子をつかむことができ、「奥行き（縦）の寸法にゆとりをもたせる」という工夫を生み出すことができた。

一時間を通した個に応じたきめ細かい指導・援助

一時間を通し、本時の（中心的な）評価を生かす場面のみならず、学習の過程の随所で個に応じたきめ細かい指導・援助ができるよう心がけた。

活動	みとどけの視点	指導・援助
1	作ってみたい袋に家族からのアドバイスが生かされているか。（絵、鞆プリント）	・家族のアドバイスを価値付ける。 ・家族との交流の様子を問い返し、家族と共に考えることができたことを価値付ける。
2	ちょうどよい大きさをどのようにとらえているか。（発言、つぶやき）	・子供の気づきを類型化して、「大きすぎ」「小さすぎ」「出し入れ」というキーワードを例示する。
3	キーワードをもとに、工夫しながら大きさを決めていくことができたか。（作業内容、つぶやき）	・「ちょうどよい大きさ」「ゆとり」をどのようにとらえたか問い返す。 ・製作カードを見て使用される状況を想起させる。 ・出し入れのゆとりについて気付いている子を参考にさせる。
4	使用される状況を考えながら大きさを決められたか。（記述、発言、つぶやき）	・使用状況を明確に話せる子を価値付ける。 ・「布、柄」や「とって」等について家で相談するとよいことを助言する。

参考資料 1

～ソーイングはまかせて～

「生活に役立つ袋を作ろう」

6年 組 氏名

袋を作る計画を立てよう

1時	自分の作りたい袋のイメージをつかむ。	6時	製作（ ）
2時	大きさ工夫し、ビニール製の型紙を作る。	7時	製作（ ）
3時	必要な布の大きさを決める	8時	製作（ ）
4時	布を裁つ	9時	製作（ ）
5時	製作（ ）	10時	袋を使ってみた感想の交流（デジカメ）

布製の袋の良さって何だろう

自分が作ってみたい袋は
誰が使う袋

何を入れる袋

どんな時に使う袋

袋を絵にあらわすと	袋の中身を絵で描いてみよう
-----------	---------------

家族からのアドバイス

いろいろアドバイスしてあげてくださいね。

こんなことを意識して作るといいよ

(書いた人)

こんな大きさにするといいよ

(書いた人)

大きさを工夫するときに考えたことを書きましょう

じょうぶにぬう場所について考えたことを書きましょう

5時 製作を振り返って

6時 製作を振り返って

7時 製作を振り返って

8時 製作を振り返って

9時 完成

袋を使ってみて(家族の感想、自分の感想、改善できそうなこと)